

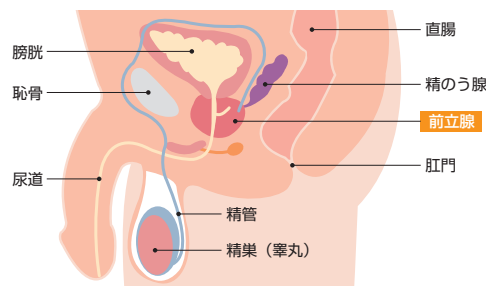
前立腺・膀胱検査を受けられた方へ

前立腺・膀胱検査に関係する用語について、以下で説明させていただきます。

男性泌尿器の解剖

膀胱は下腹部にある尿をためる臓器です。男性では、前立腺という精液やホルモンに関係した栗の実大の臓器が膀胱の出口に尿道を取り巻くように存在し、女性に比べて尿道が長いのが特徴です。尿は上腹部にある腎臓で作られ、尿管の中を下降して膀胱に貯まっています。膀胱は複雑な中枢神経（脳や脊髄）の制御のもと、蓄尿と排尿を繰り返していますが、脳からの命令があると、膀胱が収縮し、その出口となる尿道が弛緩することにより尿は体外に排泄されます。

精巣（睾丸）は、男性の性腺で、陰嚢と呼ばれる袋の中にあり陰茎の下に位置する卵形の臓器で、精子やテストステロンなどの性ホルモンを産生します。精巣で作られた精子は精管を通して精嚢腺で作られた分泌液と混合され精液となり、尿道から射精されます。



PSA（前立腺特異抗原）について

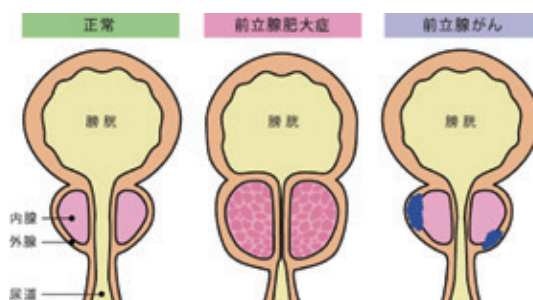
PSA は精液をさらさらにする酵素で、正常の前立腺では腺腔内に分泌されています。がんや炎症などにより前立腺組織が壊れると PSA が血管の中に漏れ出します。前立腺がんの患者さんの 80 ～ 90% に血液中の PSA の増加がみられますが、前立腺肥大症でも 20 ～ 30% の方で増加します。PSA に異常がみられた場合、超音波や MRI を用いた精密検査や前立腺組織を採取する針生検を行う場合もありますので必ず泌尿器科をご受診ください。

また男性型脱毛症（AGA）治療薬や前立腺肥大症治療薬の一部は男性ホルモン濃度を低下させ、PSA の産生が抑制されるため PSA 値は低くなります。このためこれらの薬剤を内服している場合の PSA 値の判定については泌尿器科専門医もしくは主治医に確認が必要です。

PSA は経年変化が重要ですので定期的なチェックを続けてください。

前立腺肥大

前立腺の構造は内側にある内腺とそれを取り囲む外腺に分けられます。加齢とともに内腺が大きくなったものを前立腺肥大症といいます。最も典型的な初期症状は、排尿しようとしてもすぐに尿が出ない、尿が出始めてから出終わるまでに時間がかかる、尿の勢いが弱くなり尿線が細くなる、残尿感がありトイレが近くなる（特に夜間尿）などが挙げられます。症状が気になる場合や、症状がなくても精密検査の指示があれば泌尿器科をご受診ください。



前立腺がん

前立腺がんは高齢期の男性に多いがんです。日本の男性にもっとも多いがんであり、前立腺がんが進行すると排尿時の痛みや血尿などの症状が現れますが、前立腺がんは尿道から離れた外腺に発生することが多いため、初期段階では症状が出にくいといわれています。肥満や喫煙は前立腺がんの発症や死亡の危険性が高まるとされています。

前立腺石灰化（結石）

前立腺石灰化（結石）は前立腺の内部に石灰化や石を生じた状態です。健康な男性でも加齢と共に増加し 50 歳以上の方に多く見られます。前立腺肥大症などが原因で前立腺液の流れが悪くなり、前立腺の炎症を起こした結果生じると考えられています。ほとんどの人が無症状で治療の必要はありませんが、排尿障害や痛み、陰部や下腹部、会陰部の不快感を伴う場合には前立腺炎の治療を行います。

前立腺嚢胞

前立腺内に液体がたまって袋状（嚢胞）になった状態を指します。多くは超音波検査や CT・MRI などの画像検査で偶然見つかります。小さい嚢胞はほとんど無症状ですが、大きくなると排尿困難、血尿・血精液症、下腹部の不快感などの症状を起こすことがあります。症状が気になる場合や精密検査の指示があれば泌尿器科を受診してください。

膀胱内腫瘍

膀胱内腫瘍の多くは膀胱腫瘍で、尿路上皮（膀胱の内側の粘膜のこと）にできる腫瘍です。悪性の疾患（膀胱がん）も含まれるため鑑別診断が必要です。膀胱がんは血尿や排尿時痛を伴うことがありますが、無症状の場合もありますので精密検査の指示があれば泌尿器科を受診してください。発がんリスクとして喫煙が知られています。

精索静脈瘤

精子の通り道である精管、血管（動脈や静脈）、リンパ管、神経などが束になったものを精索といいます。そのなかで静脈は精巣から心臓まで血液が戻る通り道で、精索においては細かく枝分かれして網の目のようになっています。これが血液の逆流によって拡張し、^{こぶ}瘤のようにになっている状態が精索静脈瘤です。ほとんどが無症状ですが、たまに静脈瘤のある側の陰のうや、^{そけい}鼠径部に痛みや不快感が生じることがあります。特に長時間立っている時や、おなかに力が入っている時に症状が現れます。軽度の場合は放置しても問題ありませんが、生活に支障を来す場合や男性不妊症があつてこの病気が原因と考えられる場合は手術が適応になります。

